

*:

1 ポートエッセイ「“国家戦略特区”の有効活用を」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

先月下旬に新潟市の姉妹都市、フランスのナント市に行く機会があった。ナントは環境に配慮した公共交通が整備された都市として世界に知られ、今年は欧州のグリーンキャピトル（環境首都）に選ばれている。

そのナントの公共交通がさらに進化していた。日本では大半の地方都市で公共交通が弱体化し、市民の生活交通確保に頭を悩ませている。一方で、欧州の諸都市では公共交通整備に力を注ぎ、参考にしたい事例が数多くあるが、ナントもその1つだ。

ナントでは30年ほど前からトラムと呼ばれるLRTを整備し、3路線がまちなかを走っている。2006年にはトラムより整備費が3分の1ほど割安なバスウェイ（バス専用レーンを連節バスが走るBRTの高度な形）1路線の運用を開始した。

次はバス専用路線をつくらずに、バスの走行と信号が連動するCバスと呼ばれる定時基幹バスを導入することにし、今年8月から7路線が動き出していた。古い街並みを連節バスが次々と走り抜けるさまは、なかなかの見ものだった。

「Cバスはバスウェイの整備費の7分の1で済む。そのため3年間で7路線が整備できた」と担当者はいう。いずれも朝5時から24時半までと営業時間長く、料金はトラムやバスウェイと共通で1日券が4・6ユーロ。1年乗り放題パスは500ユーロだそうだ。国が整備費の7分の1を負担し、ほかはナント市とナント広域圏が税金を投入。公社で運用している。

人口60万程度のナント広域圏でトラムに加えて連節バス130台を含む400台のバスが公共交通を支えている。「われわれは市民の移動に責任を持つ立場だ。ナント市と広域圏にとって負担は大きいが当然やるべき仕事」とナント市長は言う。

日本では税金で道路をつくるのは当たり前だが、道路があるだけでは移動できない市民もいる。公共交通整備のあり方を考えさせられるナント訪問だった。

*:

2 トピック

*:

●「八戸港災害復旧事業完了記念式」の開催 ～被災港湾復旧第1号～

(東北地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室)

8月10日(土)、八戸港において「八戸港災害復旧事業完了式」を開催しました。

八戸港は、東日本大震災における津波により、主要施設である八太郎北防波堤(3,500m)の約4割が倒壊するなどの甚大な被害を受けました。港湾利用者から早期復旧が望まれるなか、北防波堤の復旧は急ピッチで進められ、震災から2年4ヶ月を経た7月25日に完成、これをもって八戸港の港湾関係復旧工事はすべて完了しました。

完了式には、青森県選出の国会議員や八戸港振興協会、八戸港利用者など関係者約110人が出席しました。はじめに、東日本大震災の被害者へ黙祷がささげられたあと、主催者挨拶、来賓者挨拶に続き、復旧事業の概要説明を行い、最後に、港湾利用者を代表して大矢八戸港振興協会会長から「八戸港は被災港の中でもいち早く港湾機能が回復し、被災地東北の経済振興に大きな役割を果たした」と謝辞をいただきました。

完了式後、港内見学会が開催され、完了式出席者のうち約70名が船から復旧した八戸港の様子を見学しました。



完了式の様子



港内見学会の様子

●酒田港メガソーラー発電所の竣工式が執り行われました

(酒田市 商工観光部 商工港湾課)

9月26日(木)山形県酒田市酒田港北港地区において「酒田港メガソーラー発電所」の竣工式が執り行われ、施主である株式会社酒田港リサイクル産業センター代表取締役加賀谷聡一氏をはじめ、山形県内外から約50名が出席しました。

式典では丸山至酒田市副市長が「酒田市としても再生可能エネルギーの普及促進に取り組んでおり、酒田港メガソーラー発電所の稼働が、その一躍を担うことを期待する。」と祝辞を述べました。

リサイクルポートである酒田港の周辺にはリサイクル関連企業の立地が進んでおります。このほか、風力発電施設が15基稼働しており、再生可能エネルギーの拠点にもなっております。

それらのリサイクル企業の立地や発電施設に加え、今回年間120万キロワットの発電が見込まれる酒田港メガソーラー発電所の稼働により、酒田港はリサイクル産業とエネルギー産業の集積拠点として持続可能な社会への貢献を図っております。



酒田港メガソーラー発電所

●「ビーチライフふれあいフェスティバルin阿字ヶ浦2013」の実施について

(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)

9月29日(日)、茨城県ひたちなか市の阿字ヶ浦海岸において「ビーチライフふれあいフェスティバルin阿字ヶ浦2013」が開催されました。

当イベントは、人と海辺の関わりを深め、地域の活性化を図ることを目的に平成17年から実施されております。本年度で9回目の開催となり、実施当初からご参加されている梶山副大臣(当時)は今回公務として出席されました。

またこのイベントの一環として、当所にて「こどもみなと見学会」を開催しました。

見学者には船舶に乗船のうえ港内及び施設等を見学して頂いたことにより、茨城港常陸那珂港区の役割と重要性や東防波堤の津波災害への効果について理解を深めて頂くことができました。

なお、当日の朝は曇り気味で若干寒かったものの次第に晴れ間が広がり、暑さを感じるほどの陽気の中、イベントも無事終了しました。



こどもみなと見学会



梶山副大臣(当時)の挨拶

